認知症ケアにおける施設介護職員のコンピテンシーに関する研究の現状と導入の意義
ー国内の文献から―

立命館大学大学院社会学研究科　博士後期課程　大谷 明弘（009093）

キーワード：認知症の行動心理症状（BPSD）、介護職員、コンピテンシー

１．研 究 目 的

現在、介護施設（以下、現場）に勤務する介護職員を対象とした教育体制は、職場内研修（On the job Training: OJT）と業務外に受講する職場外研修（Off the job Training:Off- JT)、自己開発、自己学習を支援する自己開発支援制度(Self Development System：SDS）の 3 つに分類されている（内藤 2013)。いずれの研修も利用者の生活の質（以下、QOL）向上や介護職員自身の自己成長を目的として実施されているが、その成果が現場で活用されるレベルに至っていないとする報告がある（高 2015)。つまり、研修での理解から現場での実践（行動）に結びつきにくいことを示唆している。こうした現状は、介護施設利用者（以下、利用者）の QOL にも大きな影響を与える。従って、今後は介護職員の教育（理解から実践に繋げる）による人材育成が求められる。

教育や研修の効果に対する評価は、介護実践における教育や研修の意義を明らかにするために最も重要な要素である（高 2015)。そのためには、指導的立場の職員による評価だけではなく、介護職員自身による自己評価の視点も欠かせない。つまり、多面的に評価するシステムの構築が求められている（益岡 2013)。

そこで考えられるのが、人事評価の一つであるコンピテンシーの概念を用いることである。コンピテンシーの概念は、1970 年代にハーバード大学の McClelland により提唱された能力評価の概念で、「成果を上げ続けることのできる行動特性」「再現性のある成果行動能力」とされる。McClelland は、コンピテンシーによる評価と職務での成功との間には高い相関があると述べている。従って、介護職員の優れた行動特性を明らかにし、コンピテンシーモデルを構築することができれば、教育に役立つと考える。

そこで本研究は、認知症ケアにおける介護職員のコンピテンシーに関する国内の先行研究を整理し、研究の現状と導入の意義を明らかにすることを目的に文献研究を実施した。

２．研究の視点および方法

文献検索は、筆者の研究環境で利用可能なデータベース（CiNii、J-STAGE、医中誌 web）を用いて、「認知症」、「行動・心理症状」、「BPSD」、「介護職員」、「介護」、「ケア」、「ケアスタッフ」および「コンピテンシー」、「competency」で検索した（平成 30 年 3 月 31 日)。検索の際、研究内容が重複するもの、または同一の事例検討や学会シンポジウムの企画紹介のみのもの、対象が介護職員以外の文献は、内容を精査し対象外とした。その結果、1063 本（CiNii：129 本、J-STAGE：444 本、医中誌 web：490）の内、6 本が該当した。しかし、対象となった 6 本は、施設の介護職員を対象としたコンピテンシーに関する研究ではなかったため、隣接領域である看護師、主任介護支援専門員のコンピテンシーに関する論文 5

本を追加し、これらの領域の現状からも検討することを試みた。

３．倫理的配慮

本研究は、発表年の設定をしない文献研究とする。文献引用は日本社会福祉学会研究倫理指針の「A 引用」、発表は「G 学会発表」に規定された指針を遵守する。

４．研 究 結 果

①介護職員のコンピテンシーに関する主な研究

現場の介護職員を対象としていたのは、日本ホームヘルパー協会（2010）の研究のみで、訪問介護員のコンピテンシーモデルとして「個人能力」「方法論的能力」「社会的能力」を示し、そのモデルに基づいたチェックリスト形式の自己評価表を作成している。

②看護師のコンピテンシーに関する主な研究

松本ら（2017）は、回復期リハビリテーション看護に従事する看護師のコンピテンシーは、系統的な継続教育プログラムの作成や目標管理に根拠を提供するだけでなく、看護師自身が自己の専門性を認識することや、これまでの課題であったインタープロフェッショナルワークの促進に貢献するものであると述べている。また、山根ら（2010）は、精神科領域で働く看護師のコンピテンシーとして、「患者・家族との関係性を基盤としたライフストーリーの理解」「治療過程でわきおこる情緒的反応への対応」「エビデンスに基づいた治療的かかわりや、危機的状況への介入」「患者自身がその人らしい回復を目指すための情報提供と対処能力に対する支援」「他職種との協働による総合的な医療サービスの提供」「ケアプランの妥当性の検討」の 6 つを挙げている。更に、西澤（2008）は、皮膚・褥瘡認定看護師のコンピテンシーとして、「褥瘡を完治させることを目指し、卓越した褥瘡管理技術を駆使しながら、横断的活動をするために多職種との関係を調整する能力」としている。

③主任介護支援専門員のコンピテンシーに関する主な研究

井上（2010）は、主任介護支援専門員のコンピテンシーとして、「組織感覚力」「秩序、クオリティ、正確性への関心」の 2 つを中核とした「関係構築力」「指揮命令力」「人材育成力」「自制力」の 4 つを挙げている。

5. 考 察

本研究から、現場の介護職員を対象としたコンピテンシーに関する研究はほとんど行われていないことが明らかになった。一方で、隣接領域である看護師や主任介護支援専門に関しては、いくつかの研究が行われており、各々の専門教育に導入され始めている現状が明らかになった。従って、このようなコンピテンシーの概念を現場の介護職員に対する教育に応用することは、目指すべき目標を明確化しやすい点で有効であると考える。特に、認知症者の日常生活と深い関わりを持つ介護職員に対する教育的効果や利用者の QOL 向上を図る上でも認知症ケアに関する教育にコンピテンシーモデルを導入する意義は大きいのではないかと考える。今後は、国外の先行研究を概観した上で、認知症ケアに求められる「優れた行動特性（ケア）」の概念および実態を明らかにしたいと考える。